

平成22年5月7日現在

研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2007～2010
 課題番号：19320036
 研究課題名（和文） 和漢聯句の研究

研究課題名（英文） STUDY OF WAKANRENKU

研究代表者

大谷 雅夫（OOTANI MASAO）
 京都大学・文学研究科・教授
 研究者番号：80152172

研究代表者の専門分野：国文学

科研費の分科・細目：2901

キーワード：和漢聯句

1. 研究計画の概要

研究計画は大きく二つの柱からなる。一つは、日本各地に散在する和漢聯句資料を収集し、それを翻字して世に紹介することであり、もう一つは、それらの和漢聯句の作品について注釈書を作成することである。

2. 研究の進捗状況

和漢聯句資料の紹介については、各地の図書館や文庫に散在する和漢聯句百韻を可能なかぎり収集し、それを参加者が分担して翻字し、さらに研究代表者と研究補佐員らが点検し、編集する過程を経た上で、『室町前期和漢聯句作品集』（2008年3月、臨川書店）『室町後期 和漢聯句作品集』（2010年3月、臨川書店）として刊行した。注釈書についても、毎月継続して和漢聯句作品を会読している研究会の成果を、『良基・絶海・義満等一座 和漢聯句譯注』（2009年3月）として刊行した。現在は、応永二十五年十一月二十五日張行和漢聯句「豊年の」を会読し、来春の注釈書刊行を目指している。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

資料の公開は、室町時代の作品を前期・後期と分けて刊行することによって半ば達成できた。和漢聯句の研究の基盤を整えることができたと自負する。ただ、江戸時代に入ってから作品については、参加者のひとり楊昆鵬氏による翻字がなされたに留まる。注釈書についても、まだ一冊だけである。今年度中にあと一冊を刊行すべく努力中である。

4. 今後の研究の推進方策

和漢聯句作品注釈のための研究会を継続し、今年中にその成果を発表する。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計3件）

- ①楊昆鵬「和漢聯句における瀟湘八景の受容」（和漢比較文学44号、平成2009年2月）
 ②楊昆鵬「京都大学平松文庫蔵 『和漢々和』翻刻と解題（下）」（京都大学国文学論叢22 2008年9月 31p）
 ③楊昆鵬「京都大学平松文庫蔵 『和漢々和』翻刻と解題（上）」（京都大学国文学論叢21 2008年3月 29p）

〔学会発表〕（計0件）

〔図書〕（計4件）

- ①『室町後期 和漢聯句作品集』（2010年3月、臨川書店 362p）
 ②深沢眞二『和漢の世界』（2010年1月、清文堂）
 ③『良基・絶海・義満等一座 和漢聯句譯注』（2009年3月 250p）
 ④『室町前期 和漢聯句作品集』（2008年3月、臨川書店 325p）

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕